

古墳文化	仏教伝来	① 仏教伝来 (西域・中国・朝鮮半島を経由して北方仏教(大乘仏教)が伝来) cf. 東南アジアは南方仏教(小乗仏教) (1) 仏教私伝 司馬達等が私宅で仏像礼拝(522) = 『扶桑略記』(平安末期に延暦寺の僧皇円が著す) (2) 仏教公伝 百済の聖明王が欽明天皇に仏像と経典を献上 司馬達等の孫は鞍作鳥(止利仏師) 戊午説有力 ← 538年(戊午)説 = 『上宮聖德法王帝説』『元興寺縁起』 606年 飛鳥寺釈迦如来像 552年(壬申)説 = 『日本書紀』 623年 法隆寺金堂釈迦三尊像 ② 崇仏論争 蘇我稲目 [大臣] VS 物部尾輿 [大連] 蘇我馬子 [大臣] VS 物部守屋 [大連] → 蘇我馬子が物部守屋を滅ぼす(587) (崇仏派) (排仏派)
飛鳥文化	氏族仏教	③ 仏法興隆の詔(594) (仏・法・僧の三宝を興せとの詔) ④ 厩戸王(聖德太子)『三経義疏』(法華経・維摩経・勝鬘経の經典注釈書) ← 惠慈(高句麗の僧→595年に来日し厩戸王に仏教を教授) ⑤ 氏寺(古墳に代わる豪族の権威の象徴として豪族が建立・管理した寺)の建立 蘇我馬子 = 飛鳥寺(法興寺) (588年に建立された日本最古の寺院) 聖德太子 = 四天王寺 (593年に難波(現在の大阪市四天王寺区)に建立) (厩戸王) 法隆寺(斑鳩寺) (607年に父の用明天皇のために建立された現存する世界最古の木造建造物→670年に炎上 in 『日本書紀』) 秦 河勝 = 広隆寺(太秦寺) ★法隆寺再建非再建論争→若草伽藍跡(四天王寺式)の発掘調査(1939)で再建説が有力となる 〔渡来僧(推古朝時に来日)〕 觀勒(百済の僧→602年に来日し暦・天文学を伝える) 曇徴(高句麗の僧→610年に来日し紙・墨・絵具を伝える)
白鳳文化	国家仏教	⑥ 官大寺(官寺)(国家が建立・管理した寺)の建立 (藤原京四大寺) 大官大寺 (639年に舒明天皇が創建した百濟大寺を673年に移築) 薬師寺 (680年に天武天皇が皇后の病氣平癒のため創建) 飛鳥寺(法興寺)・川原寺(弘福寺) 〔伽藍配置〕 ① 塔は中心から外へ ② のち金堂が中心に
国家仏教の発展(鎮護国家仏教)	天	⑦ 官大寺の発展 (南都七大寺) 興福寺 (藤原氏の氏寺) → 法相宗 (興福寺が中心寺院) 玄昉・道鏡 ★藤原鎌足が創建した山階寺が前身 父 東大寺 (聖武天皇が728年に建立) → 華嚴宗 (東大寺が中心寺院) 娘 西大寺 (称徳天皇が765年に建立) 大安寺 (移転に伴い大官大寺が改称) 元興寺 (移転に伴い法興寺が改称) 薬師寺 (藤原京寺院は本薬師寺とよぶ) (法隆寺) ⑧ 護国の經典 (鎮護国家を祈るために用いられた三つの經典) 護国三部經 = 金光明最勝王經・仁王經・法華經(妙法蓮華經) ⑨ 僧尼令 (国家による僧尼統制のため、許可なく得度する私度僧を禁止・民間布教を禁止) 〔南都六宗〕 (仏教の經典を学術的に研究する6学派) 法相宗 (興福寺が中心寺院) 玄昉・道鏡 道照 (最初の方禪者) が唐から伝える 華嚴宗 (東大寺が中心寺院) 律宗 (唐招提寺が中心寺院) 俱舍宗・三論宗・成実宗 〔南都七大寺〕
聖武天皇	孝謙天皇	733年 榮叡・普照が渡唐(私度僧の増加に対して伝戒師制度の普及を目指す) 僧侶に正式な戒律を授けるための伝戒師を招請するため鑑真に拜謁して来日を要請 → 受ける僧侶の守るべきルール = 戒律 741年 国分寺建立の詔 (赤仁京で発布→全国に国分寺・国分尼寺の建立を命ずる) 金光明四天王護国寺 (国分寺の正式名称) に金光明最勝王經を安置 → 僧20名を配置し、東大寺(華嚴宗の中心寺院)を総国分寺とする 法華藏罪之寺 (国分尼寺の正式名称) に法華經(妙法蓮華經)を安置 → 尼10名を配置し、法華寺(もと藤原不比等の邸宅)を総国分尼寺とする 743年 大仏造立の詔 (紫雲院宮で発布→国中公麻呂[大仏師]らの技術で完成) → ① 行基(灌漑施設など社会事業に尽力) 唐舎那仏(大仏の正式名称)は華嚴經(東大寺を中心とする華嚴宗の根本經典)の本尊 752年 東大寺大仏開眼供養(菩提僊那(開眼導師)・仏哲(雅楽師)が林邑楽を伝える) ★良弁(大仏開眼供養のち、初代東大寺別当に就任した華嚴宗の僧侶) 753年 鑑真(律宗の僧)が戒律を伝える ★淡海三船『唐大和上東征伝』(渡航記録) (1) 東大寺に最初の戒壇を設立(754) ★聖武上皇・孝謙天皇が受戒 → 天下三戒壇(東大寺・下野薬師寺・筑紫観世音寺) 道鏡左遷 玄昉左遷 (2) 唐招提寺を創建(759) ★唐招提寺鑑真和上像(乾漆像) 正式な僧侶になるために戒壇(院)で 背景① = 飢饉・疫病の流行による社会不安 背景② = 藤原広嗣の乱(740)による政治不安 背景③ = 国家仏教(官寺の建立・護国の經典) → 鎮護国家思想(仏教により国家を護る思想) 〔社会事業〕 ① 行基(灌漑施設など社会事業に尽力) 僧尼令違反で政府に弾圧されるが、大仏造営に協力し大僧正に任じられる ② 光明子(皇后)(聖武天皇の皇后) 悲田院(貧窮者に食料を施す施設) 施薬院(貧窮者に薬を施す施設) ③ 和気広虫(法均尼) 清麻呂の姉 惠美押勝の乱後の孤児養育につとめる

①平安新仏教(桓武・嵯峨天皇は南都六宗など仏教勢力の政治介入を嫌い、平安京への寺院移転も認めず)

→天台宗(桓武天皇が支持)・真言宗(嵯峨天皇が支持)の形成

宗派	開祖	教義	中心寺院	著書
天台宗	最澄(伝教大師) ↳ 近江出身 ★804年渡唐 →805年帰国	法華経(根本經典) ↓ 顕教(經典・修行による悟りを説く) →大乘戒壇設立を主張 天下三戒壇だけでなく延暦寺でも戒壇受けられるようにしる →最澄の死後認められた	比叡山延暦寺(近江国) 叡	『山家学生式』 比叡山で学生を養成するための法式をまとめる →『頭戒論』 延暦寺の大乘戒壇設立に反対する南都諸宗への反論書
真言宗	空海(弘法大師) ↳ 讃岐出身 ★804年渡唐 →806年帰国	大日経・金剛頂経(根本經典) ↓ 大日如来を中心仏とする 密教(加持祈禱による現世利益を説く) 東密(真言宗の密教)	高野山金剛峰寺(紀伊国) 教王護国寺(東寺) ★嵯峨天皇から賜る	『三教指帰』 仏教・儒教・道教のうち仏教が優れていることを説く →仏門に入る決意を示す 『十住心論』 悟りを開くまでの過程を十の段階に分類した教理書

禱

- [慈善事業]
- ① 綜芸種智院(庶民教育のための施設)
 - ② 満濃池(讃岐国)の修築

(最澄の弟子)

②円仁・円珍による天台宗の密教化=台密(天台宗の密教)

→のち、円仁と円珍の仏教解釈の違いからその末流が対立

→円仁(慈覚大師)→山門派=延暦寺

↳『入唐求法巡礼行記』(遣唐使時の巡礼日記)

→円珍(智証大師)→寺門派=園城寺(三井寺)

↳『行歷記』(遣唐使時の巡礼日記)

図解NOTE [平安仏教]

①顕教(經典を研究することで悟りを開く)

南都六宗(華嚴経などを研究)=many many

↓天台宗(法華経を研究)=法華経 only

②密教(加持祈禱による現世利益を説く)

→曼荼羅を用いた灌頂の儀式を受けたり、山岳修行を行って超自然的な力を体得した僧侶が、加持祈禱で病氣平癒・立身出世・除災を行う
→貴族・皇族の支持を得る(保護を受ける)
※朝廷では法会など鎮護国家仏教の役割

③神仏習合(神祇思想=仏教)の浸透(奈良時代~)(のち神道)

④1052年を末法元年とする末法思想の広まり

↓人々は現世に失望し、来世での幸福を願う

⑤浄土教(浄土への往生を願う来世利益を説く)

→念仏を唱え阿彌陀如来の住む浄土に往生する
→上流貴族・中流貴族の支持を得る
ex. 法成寺無量寿院(藤原道長が建立した阿彌陀堂)
平等院鳳凰堂(藤原頼通が建立した阿彌陀堂)

⑥聖による布教で地方伝播→地方豪族に普及

ex. 中尊寺金色堂(藤原清衡が平泉に建立した阿彌陀堂)

①末法思想(釈迦入滅後、正法→像法→末法の世となる思想)

★末法元年=永承7年(1052年)

②浄土教(阿彌陀如来の住む浄土への往生を願う教え)

→「南無阿彌陀仏」と念仏を唱えることで極楽往生できる

(1) 聖(正規の寺院から離れた民間の宗教者)

10世紀半ば 空也(庶民層へ布教し、市聖・阿彌陀聖と呼ばれる)

★六波羅圖寺空也上人像(康勝が鎌倉時代に制作した彫刻)

10世紀後半 源信(恵心僧都)(天台宗の高僧)

↳『往生要集』(往生の方法を示した仏教書)

(2) 往生伝(浄土往生を遂げたとされる人々の伝記を集めた編纂書)

慶滋保胤『日本往生極楽記』

三善為康『拾遺往生伝』・『後拾遺往生伝』

①院による仏教保護(上皇の仏教信仰→出家し法皇となる)

(1) 造寺造仏→六勝寺の建立

法勝寺(白河天皇)・尊勝寺(堀河天皇)・最勝寺(鳥羽天皇)

円勝寺(待賢門院)・成勝寺(崇徳天皇)・延勝寺(近衛天皇)

(2) 寺社参詣→熊野詣・高野詣(紀伊国)

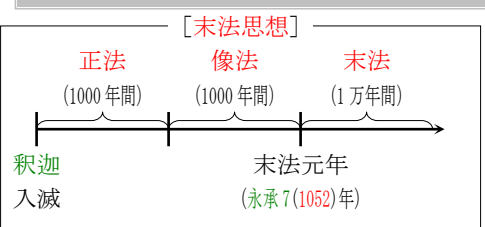
②南都北嶺の僧兵による強訴

南都=興福寺(奈良法師) 春日神社の神木をもちい強訴

北嶺=延暦寺(山法師) 日吉神社の神輿をもちい強訴

★天下三不如意(白河法皇の意のままにならなかった3つ)

加茂川の水・双六のさいの目・山法師(in『源平盛衰記』)



回 仏教私伝『扶桑略記』 by 皇円

繼体天皇即位 16 年の壬寅(522 年)、中国の鞍作鳥(止利仏師)の祖父である司馬達等が、この年の春 2 月に来日した。彼はすぐに大和国高市郡坂田原(現在の奈良県高市郡明日香村の坂田付近)に草堂を建て、本尊を安置し、仏に帰依して礼拝した。世間の人が皆言うことには、「これは中国の神様だ」と。

回 仏教公伝『上宮聖徳法王帝説』

志葵嶋天皇(欽明天皇)の治世、戊午の年(538 年)の 10 月 12 日に、百済国の聖明王が初めて仏像・経文を伝え、僧侶をおくってきた。そこで天皇は命令を下し、大臣の蘇我稲目に仏像などを授け、仏法を盛んにさせたのである。

回 仏教公伝『日本書紀』

欽明天皇 13 年(552 年)冬 10 月、百済の聖明王が、…釈迦仏の金銅像一体と幡蓋(仏堂内の荘厳具)と、いくらかの経論を献上した。…そこで天皇は群臣に一人一人問いかけられた。「百済から献上された仏の顔は端正で美しい。いまだかつて見たことがないものであるが、礼拝すべきかどうか」と。大臣の蘇我稲目が申し上げた。「西隣りの国ではすべて礼拝しています。どうして日本だけがそむけましょうか」と。大連の物部尾輿と中臣鎌子が同じように申し上げた。「わが国で天下を支配されている天皇は、常に天地の多くの神々を春夏秋冬おまつりされることになっています。今、改めて外国の神を拝まれるならば、おそらくわが国の神の怒りをまねくことになりましょう」と。すると欽明天皇は、「では、礼拝を希望している蘇我稲目に仏像をあずけ、試みに礼拝させてみることにしよう」と述べられた。

回 法隆寺の創建『法隆寺薬師如来像光背銘』

池辺宮で天下を治めていた天皇(用明天皇)は、自らが病気になる 586 年、後の推古天皇と厩戸王(聖徳太子)に「私の病気が治ることを願って、寺を建立し薬師如来像を造りなさい」とお命じになりました。しかし、用明天皇は間もなく崩御なされて寺院建立は延期されていましたが、小治田宮で天下を治めていた天皇(推古天皇)と東宮聖王(厩戸王(聖徳太子))は、用明天皇の命令を受けて 607 年に寺を建立しました。

回 古事記の序文『古事記』

臣太安麻呂が申し上げます。……天皇(天武天皇)がおっしゃった。「私の聞くとくによれば、豪族の家々に伝わる帝紀や旧辞の記事は、すでに真実と異なり、多くの虚偽が加わっているという。今の内に、その誤りを改めなければ、何年も経たないうちに、本当のことがわからなくなってしまうだろう。こうした記録は国家にとって骨組みを示すものであり、天皇が民を導く基礎となるものである。そこで、帝紀を撰び記録し、旧辞を調べ尽くし、偽りの記録を削って真実を定め、後世に伝えたいと思う」と仰せられた。その時、天皇の側近くに仕える舎人に、姓は稗田、名は阿礼という者がいた。年齢は 28 で、聡明な人物であり、一度見ただけで音読することができ、一度聞いただけで記憶することができた。そこで、天皇は阿礼に命じて、皇位の継承についての記録や旧辞などの古い物語を誦み習わせた。しかしながら、時代が移り、代も改まったので(天武天皇が崩御されて)、その事業も実行することができなくなった。これを考慮なさった皇帝陛下(元明天皇)は、旧辞に誤りがあるのを残念に思い、先紀(帝紀)の誤りや不統一を正そうとされて、和銅四年(711 年)9 月 18 日に太安麻呂に「稗田阿礼が天武天皇の命によって誦み習った旧辞を撰び記録して、献上するように」と命じられた。そこで、御命令の通りに事細かに記録した。……記録した内容は、天地が開けてから小治田の御世(推古天皇)までである。そして、全 3 巻を記録して献上するものである。

和銅五年(712 年)正月 28 日

正五位上勲五等太朝臣太安万侶

回 風土記の編纂命令『続日本紀』

(和銅六年(713 年))5 月 2 日、五畿・七道諸国の郡・郷などの地名は良い字を選んでつけよ。その地域で産出する銀・銅・彩色・草木・禽獸・魚虫などの物は、その品目を詳しく記録せよ。……

国分寺建立の詔『続日本紀』

(^①天平十三年三月)乙巳,^②詔して曰く、「……宜しく天下諸国をして、各敬みて七重塔一区を造り、并せて^③金光明最勝王經…妙法蓮華經、各一部を写さしむべし。……^④僧寺には必ず^⑤廿僧有らしめ、其の寺の名を^⑥金光明四天王護國之寺と爲し、^⑦尼寺には^⑧二十尼ありて、其の名を^⑨法華滅罪之寺と爲し、兩寺相共に宜しく教戒を受くべし。……」と。
 [①741年 ②聖武天皇が詔した ③金光明最勝王經は国分寺、妙法蓮華經(略称は法華經)は国分尼寺で読ませた經典で、ともに護國經 ④国分寺 ⑤20人の僧 ⑥国分寺の正式名称 ⑦国分尼寺 ⑧10人の尼 ⑨国分尼寺の正式名称]

大仏造立の詔『続日本紀』

(^①天平十五年)冬十月辛巳,^②詔して曰く、「……粵に^③天平十五年歳は癸未に次の十月十五日を以て、^④菩薩の大願を發して、^⑤盧舍那仏の^⑥金銅像一軀を造り奉る。……夫れ天下の富を有つ者は朕なり。天下の勢を有つ者も朕なり。この富勢を以て、この尊像を造る。」
 [①743年 ②聖武天皇が詔した ③衆生を救済しようとする菩薩の願い ④華嚴經の本尊。俗に大仏という ⑤銅に鍍金した仏像 ⑥聖武天皇]

古今和歌集仮名序『古今和歌集』by 紀貫之

^①やまとうたは、ひとのこゝろをたねとして、よろづのことの葉とぞなれりける。世中にある人、^②ことわざしげきものなれば、心におもふことを、見るもの、きくものにつけて、いひいだせるなり。花になくうぐひす、みづにすむかはづのこゑをきけば、いきといけるもの、^③いづれかうたをよまざりける。
 [①和歌 ②行うことが多い ③歌を詠まないものがあるか]

土佐日記『土佐日記』by 紀貫之

をとこもすなる日記といふものを、をむな(女)もしてみんとするなり。^①そ(其)れのとし(年)のしはす(十二月)のはつか(二十日)あま(余)りひとひ(一日)のひ(日)の^②いぬ(戌)のときに、かどで(門出)す。そのよし(由)、いさゝかにものかきつく。…
 [①紀貫之は930年に土佐守に任官、934年に離任した ②午後7～9時]

源氏物語『源氏物語』by 紫式部

いづれの御時にか。^①女御・更衣あまたさぶらひ給ひけるなかに、いと、^②やむごとなき際にはあらぬが、すぐれて^③時めき給ふありけり。……
 [①天皇の配偶者。序列は皇后(中宮)・女御・更衣の順 ②身分・家柄が尊い ③寵愛を受ける]

浄土教『往生要集』by 源信

それ往生極楽の^①教行は、^②濁世末代の^③目足なり。道俗貴賤、誰か帰せざる者あらむや。ただし^④顯密の教法は、其の文、一にあらず。^⑤事理の業因、其の行惟れ多し。^⑥利知の精進の人、未だ難しと為さざるも、^⑦予の如き^⑧頑魯の者、豈に敢てせむや。是の故に、^⑨念仏の一門に依りて、聊か^⑩經論の要文を集む。之を披き之を修すれば、覺り易く行ひ易からむ。之を披きて之を修すれば、覺り易く、行ひ易からむ。惣べて^⑪十門あり、分ちて三巻と為す。一には^⑫厭離穢土、二には^⑬欣求淨土、三には^⑭極楽の証拠、……九には^⑮往生の諸業、十には^⑯問答料簡なり。之を座右に置きて^⑰廢忘に備へむ。
 [①教えと修行 ②けがれの多い末法の世。末法思想に基づく ③道しるべ ④顯教と密教。すべての仏教 ⑤真理を悟るための修行 ⑥賢くて仏道修行をしている人 ⑦成仏するための修行 ⑧源信 ⑨かたくなで愚かな人 ⑩經と論の重要な部分 ⑪『往生要集』は十の章からなる。以下はその章の目次 ⑫汚れた現世を厭い離れる ⑬浄土を願い求める ⑭極楽についての經典上の根拠 ⑮極楽往生をするための種々の修行 ⑯問答して他とはかりくらべる ⑰信心のすたれや忘却]

往生集(空也)『日本往生極楽記』by 慶滋保胤

^①沙門空也は、^②父母を言はず、^③亡命して世に在り。或は云く、^④漢流より出でたりといふ。口に常に阿弥陀仏を唱ふ。故に世に^⑤阿弥陀聖と号づく。或は市中に住して仏事を作し、また^⑥市聖と号づく。
 [①僧侶 ②父母の名前 ③本籍地から逃亡する ④皇族の血筋 ⑤阿弥陀仏を信仰して苦行する徳の高い修行者]

僧兵の横暴『源平盛衰記』

^①白河の院は、賀茂川の水、双六の^②賽、^③山法師、是れぞ^④朕が心に随はぬ者と、常に仰せの有りけるとぞ申し伝へたる。
 [①白河法皇 ②さいころ ③比叡山延暦寺の僧兵 ④白河法皇]

回 国分寺建立の詔『続日本紀』

(天平十三年(741年3月))24日、(聖武天皇は)詔の中で次のように述べられた。「……諸国に命じて各々七重塔一基を建立し、**金光明最勝王經**(国分寺で読ませた護国經)・**妙法蓮華經**(国分尼寺で読ませた護国經)を各一部を写させよ。……僧寺(国分寺)には必ず僧20人を置き、**金光明四天王護国之寺**(国分寺の正式名称)と名づけ、尼寺(国分尼寺)には尼僧10人を置き、**法華滅罪之寺**(国分尼寺の正式名称)と名づけ、両寺ともに仏の教えと戒律を伝えよ。」

回 大仏造立の詔『続日本紀』

(天平十五年(743年))冬10月15日、(聖武天皇は)詔の中で次のように述べられた。「……天平十五年(743年)10月15日をもって、普く衆生を救済しようという菩薩の願いを起こして、**盧舎那仏**(俗に大仏と呼ばれる華嚴經の本尊)の金銅像一体をお造りする。……天下の富をもつ者は**私**(聖武天皇)であり、天下の勢いをもつ者も**私**(聖武天皇)である。この富と勢いをもって仏の尊像をお造りする。」

回 古今和歌集仮名序『古今和歌集』by 紀貫之

やまとうた(和歌)は、人の心を種として、多くの言葉となって出たものである。世の中の人々は、様々なことを行うので、そうした行いの中で、心で思ったことを、見るもの聞くものにつけて口に出していうのである。花のもとで鳴く鶯や水中に住む蛙の鳴く声を聞けば、生きとし生けるもの、歌を詠まない者がいるだろうか。

回 土佐日記『土佐日記』by 紀貫之

この日記は、男が書く日記というものを女も書いてみようと思って記したものである。ある年(紀貫之は930年に土佐守に任官し、934年に離任した)の12月21日の戌の時刻(午後7～9時)に旅立ったのだが、その旅の事情を少々書き記したものである。

回 源氏物語『源氏物語』by 紫式部

どの帝の時代のことであろうか。多数おられる女御・更衣(天皇の配偶者で、序列は皇后(中宮)・女御・更衣の順)の中に、それほど高い家柄の出身ではないが、特別に帝の寵愛を受けられた女性がいた。

回 浄土教『往生要集』by 源信

往生極楽(極楽浄土に往生)するための教えと修行は、けがれの多い末法の世(末法思想に基づく末法の世)における道しるべとなるものである。僧も俗人も、貴族も庶民も皆この教えに帰依しない者があるだろうか。**顕教**・**密教**といった仏教の教えは、経文も一つではなく、成仏するための修行も多い。知恵があり仏道修行に励んでいる人ならば、それほど難しいことではないだろうが、**私**(源信)のような頑なで愚かな者には、到底できないことである。こうした理由で、**念仏**の教えに限って、経論の中の重要な部分を集めてみた。この書を開いて修行すれば、教えもわかりやすく、修行も行いやすいであろう。内容は全部で10部門であり、3巻から成っている。(その10部門は)第1は汚れた現世を厭い離れること、第2は浄土への往生を願い求めること、第3は極楽浄土が最も尊いという根拠、……第9は極楽往生するための種々の修行、第10は問答によって他の教えと比較することである。この書を身近において、信心が弱まったり忘れそうになったりした時の備えとしたらよかろう。

回 往生集(空也)『日本往生極楽記』by 慶滋保胤

僧侶**空也**は、自分の父母の名前を言わず、本籍地から逃亡して世にいる。ある人は、皇族の流れをくむ出身であるという。常に南無阿弥陀仏を唱えている。そのため周囲からは**阿弥陀聖**とよばれる。また市中に住み仏教を説いているので、**市聖**とも呼ばれている。

回 僧兵の横暴『源平盛衰記』

白河法皇は、賀茂川の洪水、双六のさいころの目、**山法師**(比叡山延暦寺の僧兵)、これが**私**(白河法皇)の思い通りにならないものであると、常におっしゃっていたと伝えられている。